

体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する 教師行動に関する実証的研究 ：中学校及び高等学校の授業実践を事例として

スポーツ文化研究領域
5017A069-7 吉井 捷人

研究指導教員：深見 英一郎 准教授

【問題の所在及び目的】

2017（平成 29）年 3 月に告示された中学校の新学習指導要領及び 2018（平成 30）年 3 月に告示された高等学校の新学習指導要領では、アクティブ・ラーニングをもとにした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。そのため、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する実証的研究の推進は急務の課題であると考えられる。このような問題意識から、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」に関する先行研究を概観すると、授業改善の方法として「主体的・対話的で深い学び」を取り入れることに主眼が置かれており、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」の形式化が危惧される。

こうした課題に対して、例えば理科授業では、藤本ほか（2017）が子どもの「対話的な学び」を生起させることを意図した学習場面における教師の発話による働きかけに着目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を促進する教師の発話による働きかけを実証的に明らかにしている。また、アクティブ・ラーニング型の授業として多く適応される協同学習の理論を体育授業へ適応する際に子どもの学習活動に関わる教師の役割の意義が強調されていたり、「深い学び」については、子どもが考える場面と教師が教える場面の組み立てが課題となることが挙げられていることから、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」の実現を促進する教師の関わり

を追及する必要があると考えられる。

そこで、本研究の目的は、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師行動の特徴を実証的に明らかにすることとした。

【第 1 章】

第 1 章では、中学校及び高等学校の体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師行動の特徴を実証的に明らかにするための予備的検討を行った。

まず、アクティブ・ラーニングの概念や「主体的・対話的で深い学び」に関する中央教育審議会の公文書及び「主体的・対話的で深い学び」に関する先行研究を整理し、本研究における「主体的・対話的で深い学び」の捉え方を措定した。

次に、体育科教育学における教師行動研究や「主体的・対話的で深い学び」と教師の関わりについて論じた先行研究を概観し、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師行動の特徴を仮説的に明らかにした。特に「主体的な学び」の促進については、教師の積極的な相互作用の意義が強調され、「対話的な学び」の促進については、教師が授業の目標及び評価を確認する働きかけを繰り返すことや他者との関わりを促進するような働きかけを行うことが重要であると推察された。そして、「深い学び」の促進については、「主体的な学び」及び「対話的な学び」同様に、その実現に関わって、教師の具体的で積極的な相互作用が必要となると推察された。

さらに、体育授業における「主体的・対1つは単元全体において、もう1つは毎時間の体育授業において、それぞれ生徒の「主体的・対話的で深い学び」が実現していたかどうかを評価するための2つの授業評価尺度を作成した。

【第2章】

第2章では、中学校の体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師行動を実証的に明らかにするために、A中学校3年生を対象として「主体的・対話的で深い学び」の実現を意図したハンドボール単元の授業実践を行い、A教師の相互作用及び生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を分析した。その結果、教師が生徒の技能的なパフォーマンスに対して肯定的及び矯正的なフィードバックや励ましを積極的に行うことで、生徒の「主体的な学び」が促進されることが明らかとなった。そして、「主体的・対話的で深い学び」に対する子どもの主観的な受けとめ方との関係から、生徒の技能的なパフォーマンスに対する肯定的フィードバックは、生徒同士の学び合いを誘発することが示された。さらに、技能的及び対話的な「励まし」は、学習資料を活用した生徒の学習活動を促進することが示唆された。

他方、A教師の相互作用の特徴でもある「認知的な励まし」が主として「深い学び」に関する項目と負の相関を示した。「認知的な励まし」は、一見すると子どもの思考の深まりを促進する相互作用として捉えられるため、一層質的な検討を行うことの意義が示唆された。

【第3章】

第3章では、高等学校の体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師行動を明らかにするために、B高等学校2年生を対象として「主体的・対話的で深い学び」の実現を意図したバスケット

話的で深い学び」の実現を評価するために、ボール単元の授業実践を行い、B教師の相互作用及び生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を分析した。その結果、B教師の相互作用の特徴として、各種「励まし」が全体の約7割に及ぶことが明らかとなった。なかでも学習者の技能的なパフォーマンスに対して「励まし」を行うことで、学習者の「主体的な学び」が促進されることが明らかとなった。

一方で、学習者の技能的なパフォーマンスに対して「矯正的なフィードバック」を多く与えることは、学習者の「学習活動の振り返り」の実現に対してマイナスに作用することが示唆された。このことは、学習者の技能的なパフォーマンスの向上に対し、意味のある情報を伴ったフィードバックが与えられていなかったためであると推察された。

【結章】

結章では、A教師とB教師の相互作用及びそれぞれの体育授業における子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実態を比較検討し、体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師行動の特徴を総合的に考察した。その結果、教師の相互作用が「主体的・対話的で深い学び」のなかでも、特に「主体的な学び」を促進することが示唆された。また今後の検討課題として、対象となる生徒の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」を促進する相互作用についての検討をより一層推進することの必要性を指摘した。

【主要引用参考文献】

藤本義博・佐藤友梨・益田裕充・小倉恭彦
(2017) 主体的・対話的で深い学びを促進する教師の発話による働きかけに関する実証的研究. 理科教育学研究, 58(2): 159-172.